

【 第8回 男子ユース世界選手権 】

2019年8月6日～8月18日 開催地:北マケドニア

試合結果報告 8 月 11 日 (日)

JAPAN	vs	ナイジェリア
18	1st	9
17	2nd	21
	ex	
	ex	
35	TOTAL	30

個人得点

No.	NAME	1st	2nd	ex	ex	TOTAL
2	佐藤 陽太	3	0			3
4	可児 大輝	4	5			9
6	窪田 礼央	0	3			3
7	安平 光佑	0	0			0
8	清水 裕翔	6	2			8
9	吉田 守一	1	0			1
11	藤川 翔大	0	0			0
12	矢村 裕斗	0	0			0
14	山口 直輝	0	0			0
16	高木 アレキサンダー	0	0			0
17	朝野 翔一郎	0	1			1
20	石田 知輝	0	2			2
22	白石 竜聖	0	0			0
23	治田 大成	0	3			3
24	榎本 悠雅	0	1			1
25	蔦谷 大雅	4	0			4
TOTAL		18	17	0	0	35

戦況

試合開始早々から一進一退の攻防が続くが、先にリズムを掴んだのは日本。12分6-6から清水のスピードプレーで勝ち越すと、吉田のポストで初めて2点のリードを奪い、日本の攻守のリズムが良くなった。蔦谷のサイドや清水の3連打などで、22分までに14-8と一気に混戦を抜け出した。

抜群のスピード力を持つナイジェリアだが、時間とともにDFの集中力を欠いたことで退場者が多発、佐藤のステップ、蔦谷の速攻などで得点ペースを上げた日本が、18-9とダブルスコアで前半を折り返した。

後半に入っても日本ペースは変わらず、帰陣の遅い相手を速攻で切り崩し、石田の連打や可児のサイドなどで38分24-14と10点差まで水をあげた。

しかし、それからはシュートの精度を欠き、DFでも簡単に失点を許す場面が目立ち、19分までに29-23とじりじりと差を詰められた。

このあと窪田、榎本、治田らで加点、21分には治田から清水へのスカイプレーによる得点で、流れを引き戻したかに見えたが、終盤はナイジェリアのプレスDFにミスが多発するなどして失点がかさみ、26分には33-29と4点差まで詰め寄せられた。

結局は35-30でタイムアップ。次戦以降、世界上位をめざす強敵が待ち受けており、一瞬たりとて気の抜けない、厳しく、タフな展開を乗り越えてかなければならない。しっかり切り替えて、次戦の地元北マケドニア戦に臨みたい。

この試合のMOMIは速攻、サイドなどで9得点をマークした可児が選出された。

報告記入者 :

吉田耕平